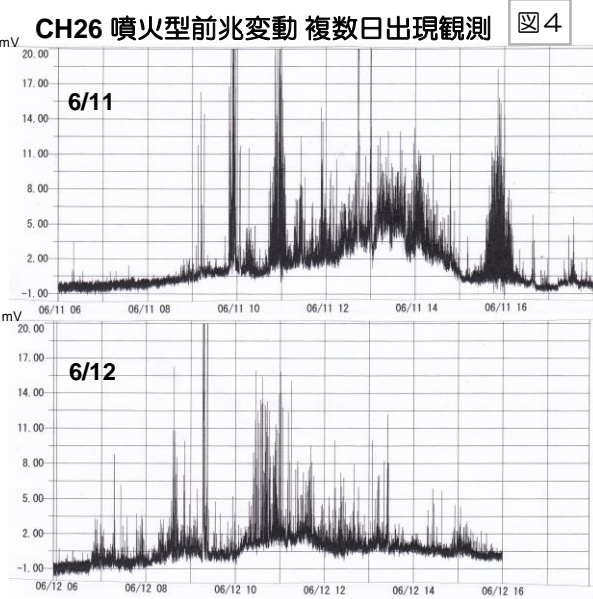
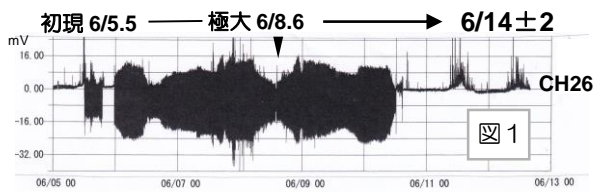


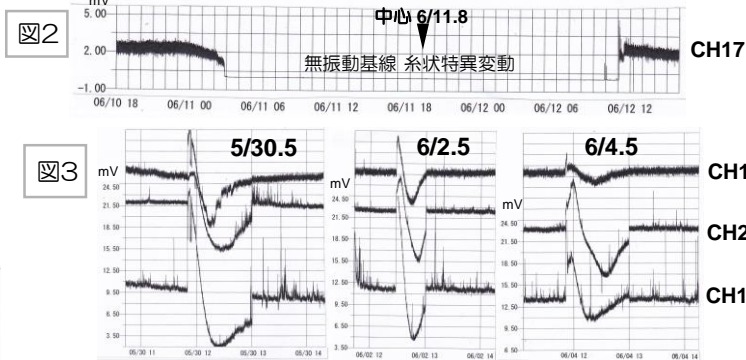
※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は30年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様へ出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail または FAX で配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。2024.1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましては、2023.12/31の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2 に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±0.3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。皆様の本観測研究に対するご支援（情報配信参加）を賜りたくお願い申し上げます。

No1778 18年継続長期前兆変動 6/14 or 6/15 (6/15±2) 対応地震発生の可能性高い

CH26 顕著特異 別形態前兆変動 再出現無し



CH17 無振動基線 糸状特異静穏化 (出現時間32時間)



◆図1 CH26に出現した顕著特異変動からは、6/14±2 発生の可能性を示します。静穏化した後も図4に示した噴火型前兆変動のみで、基線の激しい変動の再出現は認められません。
◆前号で報告したCH17の無振動基線糸状特異変動は本日昼前に静穏化しました。その後現在まで再出現は認められません。特異変動は32時間の出現で、中心は6/11.8となります。このCH17の特異変動が図3に示した特異変動に対する直前変動の可能性を考えておりますが、出現期間の中心 6/2を極大とした場合=6/13.8±2 を示す一番大きな変動値の5/30.5を極大とした場合=6/14.3±2 を示すこととなります。
◆Stage-34 の A5 の変動関係からは、6/13±3が示されています。Stage-34 のCH26の変動関係からは、6/15±3が示されています。本情報に掲載した変動からは、6/13又は6/14±2が示されますので、No1778がStage-35に移行しない限りは、6/14 or 6/15 (6/15±2) 対応地震発生の可能性が高い見解です。
◆図4のとおり、噴火型前兆変動が複数日出現したため、地震発生に伴い（または発生後）震源に近い火山の噴火の可能性考えやすい。

- 推定領域：図5の実線領域内＝大枠推定領域
斜線領域＝火山近傍で可能性が考えやすい推定領域

- 推定規模：
主震十余震型の場合＝ M8.0±0.3 (M7.7～M8.0の可能性高い)
または複合地震活動＝複合の場合はM7以上地震の断層長Lkmが Log L=0.5M-1.8 (Utsu.)式で合計で110～150km程度となる様な複合地震活動の可能性有 (例：M7.1±0.3+M7.3±0.3 等)
- ※地震発生に伴い震源に近い火山で弱い噴火の可能性も考えられる
地震発生に伴い震源に近い火山が必ず噴火すると断定することは困難ですが、弱い噴火活動が生じる可能性が否定できません。

- 推定時期：6/14 or 15 (6/15±2)
※6/17までに発生無くCH26に顕著特異が再出現した場合は続報予定

- 推定地震種：震源浅い日本列島陸地地殻地震
○推定発生時刻：午前 8時30分±2時間 or 午後 6時±3時間
(複合地震では当てはまらない場合有)

※17年以上継続する観測歴上最長の変動は観測例がない初めての体験で、解析が極めて難しいため推定に誤りがある可能性は否めません。お許しください。対応地震が推定に近い内容で発生した場合でも被害が少ないことを祈ります。

県境をわかり易くするため、影響局からの検知ドーナツ円（領域推定の作図線）を消した図で表示しました。



図5